

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(Bフロア)

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人 なみはや		
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ		
所在地	大阪市都島区中野町1丁目12-11		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>少人数に利用者様が住まわれている当施設では、個性を大切にしております。個々の生活歴によって生活のリズムも違っておりますが、基本的なそれはまもってもらいながら、起床、就寝、食事、入浴等は利用者様の希望を出来る限り大切にし生活して頂いております。また母体の東和病院とも連携が取れていますので、急な熱発、転倒による疼痛に対しても常駐看護師の初見から、訪問看護への連絡、指示、もしくは受診に至るまで一連の流れがスムーズにおこなえ、利用者様、御家族様にも安心して頂けるようになっております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様に対しての対応及びサービスは言葉使いを丁寧にし、表情も柔らかくするように、すべての職員に徹底しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、初詣や夏祭り、地域のイベントに参加しています。(今年はコロナ禍の為すべて中止)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の懇親会、運営御推進会議を通して、各々の場で高齢者についての問題を話し合い、検討したりして、認知症に向き合ったことのない町内会の方がたに、認知症の初期症状の情報を話させていただいていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、ヒヤリハットを毎回発表し、フロア内では出なかった意見を地域包括支援センターの方から頂き、支援につなげるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区町村の介護課の方々との連絡は密とはいえない状態です。しかし転倒、入院に関わる事故が起きた際には、大阪市指定指導グループに早急に文書を送り、運営推進会議の場で地域包括支援センターにも報告しております。また必要に応じて、区役所各課に教えを頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを常備し、研修も行ってあります。フロア会議においても個々の行為が拘束にあたるかを毎月検証しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を施設内で行っています。毎月フロア会議においても、個々の支援が虐待につながらないかを、職員で話し合う機会を持ち、周知につなげています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらの制度があることは専門家に来所して頂き、研修を行っていました。レジメを頂き職員それぞれが記録提出し、知識をアウトプットする事で、より一層深く情報を自身に落とし込んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様へは入居の際には必ず、ご納得いくまで説明時間を取らせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話の有ったときには日頃の状態報告を行っています。その際には家族様からのご意見を伺い、運営推進会議の場で話し合うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議において各リーダーが職員の意見を聞き、それを管理者に全体会議において話し合う場を設けております。また職員の申し出により管理者との個別の相談機会も設けております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記の仕組みにより個々の職員の仕事の取り組み等を管理者が把握しやすいようになっています。それを踏まえ各職員がモチベーションの上がるようなシステム作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体が開催している、大人数が集まる研修会や懇親会を開催し、各施設内での内情や支援方法を話し合う機会を設けていました。が今年度は施設内にとどまっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記記載の通り行っていました。花見、花火大会、区の開催する区民祭り等各事業所から職員や利用者様に参加してもらい共同で開催する機会がありました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人及び家族様に見学をしてもらい、数回にわたり面談を行い、当施設を理解して頂き、不安のないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の様々な要望を拝聴し、どんな些細な疑問も気軽に聞いて頂けるような信頼関係をケアマネ、職員、看護師で築く様にしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、ご本人、家族様の希望を伺い多職種からの意見も参考にし対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じ日常生活の一部をお手伝いして頂く等の役割を持って頂いている。食事を共に作れる方には味付けを見て貰ったりし、先人の知恵を頂く様にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に一回のバス旅行に家族様にも参加して頂く様にしている。また家族様同伴での外出もして頂き、家族水入らずの時間を持ってもらうようにしています。そういう機会を設けることで、家族様にも支援の一員としての自覚が芽生えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が家族様やご友人に電話をしたいと言われる時には支援をしています。またご友人やご親類の方からはがきや手紙が来たときは、読むのが困難な方には読み聞かせを行っています。返信を送ることが出来る方には、その支援も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見極めて、食席の移動を随時行い、気持ちよくお互いに過ごせるように日々、様子観察を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様ご家族には、イベントの際にも参加して頂いております。その際には親御様の状態を伺ったり、また家族様の心情をお聞きしたり、関係が途絶えないようにしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の自己決定を尊重しケアに臨んでいます。出来る限り本人の立場に立ったケアに努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様には十分な聞き取りを行い、その人なりを職員一同把握し、支援に取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	メリハリのついた生活を過ごしてもらうようにしています。しかしどうしてもまだ寝たい等の訴えがあるときには朝食時間をずらせたり、少人数ならではの対応も行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前、入居後も家族様からの情報収集は都度行っています。ご本人の生活歴等を周知し、入所前の生活に出来るだけ即した生活を送って頂けるように、フロア会議等で話し合いを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過と、定期的なモニタリングから導き出される問題点を、都度見直し、ケアマネージャー、計画作成者、リーダーと話し合いを行っています。それを計画の変更や区分変更を活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族様のニーズにできる限り対応するようにしています。買い物を希望される方がいる場合は、地域にまわっている関西スーパーのトクシマルを利用し、自分の財布からお金を出す行為で、実生活間を味わってもらっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に地域包括支援センターの協力を得て努めています。ボランティア、有志団体、紙芝居等の取り組みをされている方々にとっても発表する機会を得、また利用者様にとっても似たお年の方々の活躍に刺激を受けられています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	当事業所の連携医療機関の説明を行い、家族様の納得を得て受診してもらっています。また入所の際には、家族様、ご本人がどの医療機関を受診したいかの希望を伺うようにしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐看護師、介護職員、関係医療機関の訪問看護師とは、常に情報交換を行い連携を取っています。また異常時には指示をもらうようにし、その指示についても申し送りに記載しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には介護サマリー、看護サマリーを提出し、入院時の対応に支障がないようにしています。またMSWとの連絡は密にしており、退院許可を随時確認しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には契約書、重要事項説明書と共に緊急時の対応、看取りについても説明を行い署名捺印を頂いております。しかし緊急時の対応と看取りに関しては加須k様のお気持ちの変化もあるので、定期的に見直しを行い新たに署名捺印文書を旧友しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関しての対応を研修にて行い、全職員がスムーズに行えるように指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っています。その中の1回は消防署立会いのもと訓練をしています。わからないことは質問をしてそれを記録に残し、全職員に回覧しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重と言葉使い、接遇に関しては機会があるごとに指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や、お話を傾聴したうえで、思いや希望を推察し、利用者様に自己決定する支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは基本として、個々の体調や気分に応じた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容の支援のほか、月に一回の訪問理美容を利用して頂く等、ご本人の意向を確認しながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食器拭き等、その人の能力に応じた役割を持って頂いています。その際にも他者と共に行い、声掛けしあいながら、支援しあいながら楽しみながら行ってもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は食材業者に委託しています。水分量に関しては、往診時に既往症の見地から医師に相談し、一日の水分量を個々に決めてもらい、飲水の奨励を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは支援し行っています。また週1回訪問歯科による受診、歯科衛生士による口腔洗浄をしてもらう事で、口腔内の清潔維持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様や家族様、と話し合い都度排泄に関することは変更を行っています。また個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、水分摂取により排泄を促す工夫をしています。また日々看護師とともに排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を優先し対応しています。判断ができない利用者様に対しては、表情、体調を見ながら声掛けを行い、羞恥に配慮し気持ちよく入浴してもらうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムは大切にしながらも、個人個人の体力に応じた休息時間を一日の中で設けています。また夜間の就寝時に影響を及ぼさない程度の休息にるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が薬効、副作用、禁忌等を把握するように指導しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、音楽会等趣味のイベントや、日々の塗り絵、読書等入所前に大切にされていた習慣を継続されるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状コロナ禍の中外出は出来ない状態です。しかし体操を行ったり、歌を唄う機会を設けたり、めりはいのある生活の工夫をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人様に管理して頂き、買い物等でそれを利用し満足感を得て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて、支援しています。就労されている家族様に対しては、夜間、土日の職員が電話取次を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備は毎日行っています。光に対してはカーテンを活用し、においに対しても窓を開ける、汚染物は新聞紙に包みビニール袋に入れて匂いの遮断に努めています。空調についても利用者様の意向にできる限り応じて、設定しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の関係性を見ながら、気の合ったもの同士を食席を近づけたり、離したり、様子観察を常に行い気持ちよく過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ思い思いの家具や写真を貼られて、自分だけの空間を作り寛がれています。またそれらを作る支援をさせていただきます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、倉庫等は分かりやすいように記載し、利用者様が迷いや転倒する事の無いようにし、家具の配置にも気を配っております。それによって杖や歩行器で廊下を自由に歩くことが出来るようにしております。		